

## メッセージアウトライン ローマ 5：1～5 「患難さえも喜んでいる」

[1] 「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」

人が信仰によって神に義と認められることを知るまでは、神は彼にとって恐ろしい裁き主である。誰も神の律法を完全に守り行うことはできず、心はいつも不安と恐れに満たされて、罪の意識が生じるのみである。しかし、信仰によって神に義と認められた者は神との平和を持つ者となる。神は恐ろしい裁判官ではなく天の親しい父となる。

[2] 「またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」

「神の栄光」とは神の卓越性、完全性のすべてを表わす用語であり、また、その特別の表れを意味する。キリストにより、信仰により、恵みに導き入れられた者は、この神の栄光にあずかる希望をもって大いに喜ぶことができるのである。

[3] 「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、」なぜ患難をも喜ぶことができるのか。それは患難がそれだけで終わることなく、忍耐を生み出すからである。問題のない楽な生き方がクリスチャンの生き方ではない。ここで教えている「忍耐」とは、ただ消極的にがまんするというのではなく、確固たる信仰をもって積極的に生きることを意味する。これは人生における多くの圧迫と困難に耐えてこそ生み出されるものである。

[4] 「忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」

患難を避け、逃げ回ってばかりいるならば、私たちは決して忍耐することを学ばず、また、練られた品性を持つ者とされることもないであろう。しかし、患難によって練られた品性を持つ者とされた者は、どのような状況にあっても希望を生み出すことができるようになるのである。「練られた品性」の原語のギリシヤ語は「試験によって立派に証明された品格」という意味がある。

[5] 「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

イエス・キリストを救い主と信じた者には聖霊が与えられている。その聖霊によって神の愛が信じた者の心に注がれている。私たちを愛し、私たちのためにご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方がどうして私たちの希望を失望に終わらせることがあるだろうか。

イエス・キリストにある恵みに信仰によって導き入れられた者は、神の栄光を望んで大いに喜び、また患難さえも喜ぶことができる。それは、患難→練られた品性→失望に終わることのない希望へと続くことを知っているからである。